



学校だより

信頼を築く学校

茅野市立
東部中学校

令和3年度 No.13 文責 松島

発行日 11月26日

全国学力・学習状況調査から見えてきたこと

本年度の全国学力・学習状況調査の結果が文科省より発表されました。この調査の目的は中学3年生に、国語・数学の学力調査や、学習習慣・生活習慣に関する調査を行い、その結果から学校での学習指導の成果や課題を明らかにし、今後の「授業改善」に生かしていこうとするものです。学力調査は国語と数学がありました。学習状況では、「生徒の意識」や「家庭での生活の様子」などが質問されています。本校の調査分析の結果と考察が終わりましたので、そのご報告と今後の取り組みについてお伝えします。

1 これまでの取り組み

(1) 「東部中のめざす学び方」の提示

本年度「主体的・対話的で深い学び」の具現に向け、以下のような「東部中学校のめざす学び方」を決めだし、年度当初に生徒と職員で確認をすると共に、各教科、毎時間の授業でこれを意識した授業づくりに取り組んできました。

① 見通しを持つ

今日、何を考え、何を解決すればいいのかはっきりさせて

② 自分で解決できるか試みる

まずは自分の力で考え、何がわかり、どこがわからないか明確にもって

③ 友達と解決を試みる

友達と意見交換して、解き方・考え方を知ったり、自分の考えを変えたり、理解を深めたりして

④ 発信し様々な考え方に触れる

わかったこと、考えたことを共有し、今日の目標を達成させる

⑤ まとめる

最後、今日の時間でどんなことを学び、何がわかったか振り返る

(2) 授業改善

昨年度より、各教科における「主体的な学びの姿」「対話的な学びの姿」を具体的に追求して行くことをテーマに掲げ、日々の授業づくりに取り組むと共に、全校研究授業・教科内研究授業を位置づけ、その成果の確認と更なる授業改善に取り組んでいます。



2 学力状況調査 各教科の調査結果より

(1) 国語科による考察と改善の方向

全体の正答率は県、国の平均を上回りました。評価の観点別では、「書くこと」「言語に

ついで知識・理解が全国平均に比べ高くなっています。自分の考えを比較的自由に書く問題については積極的に問題に取り組む姿が見られ、正答率も高くなっています。ここ数年「書く」ことに力を入れて指導してきた結果が感じられます。

「読むこと」の正答率は全国平均よりもやや低くなっています。物語の中における語句の意味を捉える問題、動が誰のものか尋ねる問題は正答率がやや低く、文章の一部分だけを読んで判断を下して、場面の流れを掴むことができていない解答が多く見られました。また、条件に沿って表現を引用することが出来ていない生徒が半数以上いました。

以上のことから、これからの指導で身につけさせたい力

- ① 文学的な文章を的確に読み取れる力をつけるために、場面や表現を自分の言葉で説明し直すなどして、捉えが正確であるかを確認する場面を設けることに取り組んでいきます。
- ② 文章を自分で推敲できる力をつけるために、自分の書いた文章を仲間の視点を取り入れながら条件に合っているかどうかを確認し推敲する場面を設けることに取り組んでいきます。

(2) 数学科による考察と改善の方向

4領域「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」に分けての正答率は、全国平均とほぼ変わりません。大きな差ではありませんが、図形の正答率が全国に比べやや低い結果となっています。評価の観点別では、「数学的な技能」が全国平均に比べ高く「数学的な見方・考え方」「知識・理解」について、やや低い結果となっています。計算すること、文章を読んで関係を式に表すこと、資料から中央値を求めること、グラフの点が何を表すか選ぶこと等については正答率が全国・県平均より高く、扇形の中心角と弧の長さや面積の関係について理解しているか問われる問題の正答率は低い結果となりました。勘違いやよく読まず答えたと考えられる回答が約20%、理解していないと思われる解答が約15%でした。また、文章から「～は～の関数である」という形で表すことについて、表せない生徒が約半数いました。これらの結果から、基本的な内容の理解や技能は身につけていると考えられますが、全体的に「意味を考えること」「観察すること」「わかったことを表現すること」が苦手であるということが分かります。

以上のことから、これからの指導で身につけさせたい力

- ① 基本的な技能の習得ができるような問題演習を続けていきます。
- ② 関数の表やグラフをかいたり、図形をかいたり比べたりするときに「かくことは手段で、特徴を見つけることが目的である」ことを指導して、発表の時間も数学的な表現ができることを大切にしていきたいと思います。
- ③ 数学的な気づきにつなげるために「法則性」を意識づけ、説明にまでつなげられるように取り組んでいきます。

3 学習状況調査

(1) 学習の様子

「1、2年のときに受けた授業で、生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか」・「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という項目



に注目してみるといずれも、全国や県の結果を上回っており「主体的な学びの姿」「対話的な学びの姿」が定着してきていることが分かります。

「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」・「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組もうとしていますか」・「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」という項目に注目してみると、いずれも、全国や県の結果を大きく上回っており、学び合いの姿が学級活動や道徳でも定着していることが分かります。



一方で「国語の勉強は好きですか、数学の勉強は好きですか、英語の勉強は好きですか」という3つの項目に注目すると、国語では全国や県を上回っていますが、数学と英語では下回っており課題を感じます。この結果は、学力テストの結果にも反映されており、国語が全国や県を上回っているのに対して、数学は下回っています。教科指導の中で、今後自分のために大事な勉強をしていることや、何かの役に立つために率先して勉強しているという意識をもたせていくことが必要であると感じます。

(2) 全国や県との比較で東部中学校の良さが感じられる項目

① 質問項目「朝食を毎日食べていますか」「同じくらいの時刻に起きていますか」

朝食を毎日食べることやほぼ同じ時間に寝起きする生徒の割合は90%を超えており、全国・全県平均を上回っています。茅野市で大切にしている「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムの定着が見られます。

② 質問項目「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「友達と協力するのは楽しいと思いますか」

いずれも90%以上の生徒が肯定的な考えをもっており「開拓の時間」(「縄文・市民科」)の学習や道徳科の学習、日々の学びの中で友との良い学び合いができていていることが分かります。

③ 質問項目「人が困っているときは、進んで助けていますか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」

いずれも90%以上の生徒が肯定的な考えをもっており、人権感覚の高まりが見られます。昨年度より取り入れてきた人間関係づくりの活動等を通して、学校生活や家庭・地域の中でよりよい人権感覚が育ってきていることが分かります。

4 今後取り組んでいく重点的活動

(1) 全校で

- ① いしずえタイムで実施している「人間関係づくり」の活動を更に充実させ、安心して関わり合える関係づくりをすすめていくと共に、テスト前に全校で学習に向かう時間を更に充実させ、学習への意欲を高めていきます。
- ② 読むという活動の確保のために、朝読書を更に大切に位置づけていきます。
- ③ 身近な問題をテーマにして、自らの考えをもったり、自分の考えを論理的に説明したりする機会を大切にしていきます。

④ 学校行事や学年行事・生徒会活動及び茅野市型コミュニティスクールを活用し、地域や社会とのつながりを更に深めていきます。

(2) 授業を通して

- ① 自ら問いをもって授業に臨めるようにするため、単元の見通しがもてるよう工夫をした授業づくりを進めていきます。
- ② 「東部中のめざす学び方」を再確認した授業づくりを進めていきます。
- ③ 生徒の考え方や問題に対するの悩みを共有して、生徒のなるほど・分かった・できたを見とどける授業作りに努めていきます。
- ④ ICT機器の効果的な活用方法を研究して、個別最適化した学びに取り組んでいきます。

(3) 来年度以降の研究体制

- ① 本年度研究を進めている「主体的な学びの姿」「対話的な学びの姿」を追求すると共に、更に各教科で探求的な学びをテーマに取り組んでいきます。
- ② 各教科での研究を進めると共に、テーマ別の研究チームによる授業研究を進めると共に、日常の授業を互いに見合う一人一公開を進めていきます。

以上、本年度の全国学力・学習状況調査の結果と考察を掲載させていただきました。茅野市教育委員会より配布された『「生きる力」を育む児童・生徒の学力向上を願って』と合わせてご覧いただき、ご質問やご意見がありましたら、学校までお問い合わせください。